

◆団体基本情報

No.	15	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人 瑞鳳殿		
所在地	〒980 - 0814 仙台市青葉区霊屋下23-2						
電話番号	022 - 262 - 6250	FAX番号	022 - 262 - 6251		所管 部局	文化観光局 観光課	
団体ホームページ	https://www.zuihoden.com/						
代表者職氏名	理事長 藤本 章		設立年月日	昭和55年1月30日			
資本金・基本財産	888,343 千円	市の出捐額(割合)	582,877 千円 (65.6 %)				
設立目的	仙台藩以来の文化的遺産である瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋及び経ヶ峯内伊達家墓所の保存整備並びに伊達家霊廟等に関する学術研究を行い、併せて当該施設の鑑賞の機会を提供し、文化の向上に寄与する。						
事業概要	(1) 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋の管理運営及び経ヶ峯内伊達家墓所の保存・整備 (2) 瑞鳳殿資料館の管理・運営 (3) 伊達家宝物等に関する展覧会、講習会、講演会等の主催・公演 (4) 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋及び経ヶ峯内霊廟並びに伊達家墓所に関する調査研究						
評価対象決算期	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日						

◆人員等の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①常勤役員数	1 人	1 人	1 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	62.0 歳	63.0 歳	61.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	4,742 千円	4,743 千円	4,650 千円
④職員数	10 人	9 人	8 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
⑤職員平均年齢	51.6 歳	51.1 歳	52.0 歳
⑥職員平均年間給与	4,003 千円	4,365 千円	4,759 千円

◆主要財務データ

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①当期経常増減額	13,218 千円	28,099 千円	△ 31,118 千円
②当期経常外増減額	0 千円	0 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	13,218 千円	28,099 千円	△ 31,118 千円
④一般正味財産期末残高	368,714 千円	396,813 千円	365,695 千円
⑤指定正味財産期末残高	782,556 千円	782,556 千円	782,556 千円
⑥正味財産期末残高	1,151,270 千円	1,179,369 千円	1,148,251 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	0 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	0.00 %	0.00 %	0.00 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和2年度事業費
瑞鳳殿等の管理運営と鑑賞機会の提供	瑞鳳殿の管理運営と鑑賞機会の提供並びに伊達家霊廟等の調査研究	90,170 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	<p>当財団の公益的使命は、伊達家霊廟の調査研究や瑞鳳殿施設の公開による文化の向上であるが、その一方で、本市の主要観光施設として、国内外から多くの観光客を集めており、本市の観光施策における重要な一翼を担っている。また、これまでもインバウンドや七夕まつり、秋のライトアップへの対応など、市が取り組む施策に積極的に対応している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症や福島県沖地震による石灯笼倒壊といった厳しい運営環境下において、臨時休館措置や感染症対策、石灯笼倒壊の安全対策など、観覧者の安全確保に万全を期すと同時に、関係者との連携の下、柔軟かつ適切な運営を行っている。</p>
2. 業務・組織管理	<p>職員は当財団の設置目的や運営方針をよく理解し、協調して組織運営に努めている。当法人が管理運営する施設は、ほぼ無休で公開しているが、従事する職員が交代勤務のため、組織内の情報の共有化が課題であった。このため全員出勤日を増やし、案件の進捗状況などの共有すべき情報の徹底を図ることにより、組織内の連携も強化されている。</p>	<p>運営基本方針を策定し、組織の基本方針の可視化を図っている。業務についても不断の見直しを行っており、今後とも、効率的な事業運営を保持しながら、環境の変化に柔軟に対応できる組織の構築に取り組んでいただきたい。</p>
3. 財務状況	<p>当財団の財務状況は、集客数に左右される要素が大きく、令和2年度は、感染症や地震の影響により、臨時休館となったため観覧者数が対前年比37%（63%減）の102,582人とどまった。このため決算の当期経常増減額は、マイナス約3,111万円の赤字となった。また、当財団の資産構成は、建物、構築物が圧倒的に多く、これらの資産を維持するためには、今後も大規模な修繕にも対応しなければならないところであり、中長期的に多額のメンテナンス費用が必要となる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、集客に向けた効果的な事業を展開するとともに、効率的かつ安定的な法人運営に取り組んでいただきたい。</p>
4. 今後の方向性及び課題	<p>当財団の収入源は観覧料収入であり、安定した経営基盤に向け、更なる集客力アップにはソフト面の充実や、瑞鳳殿一番の魅力であるハード面の維持管理や修繕するための中長期的な資金確保が必要である。しかしながら、このコロナ禍においては、未だ収束の見通しが立っておらず、影響が長引くことにより、年間観覧者数の回復が遅れると予想されることである。安定的な資金確保に向けては、新たな経営環境のもと国内観光需要の取り込みや、県民、市民への需要喚起を図るとともに、インバウンドの段階的復活に対応した事業計画を検討する必要が求められる。</p>	<p>安定的な法人運営のため、主な収入源である観覧料収入の確保が必要。ワクチンを接種した高齢者を中心に、徐々に観覧者数の回復が見込まれることから、時機を捉えた効果的な事業や業務の効率化を進めていただきたい。</p>